

於テ得タル諜報ニ拠レハ真偽ハ詳ナラサルモ独逸領事館張通訳ノ洩ラセシ言ナリト云フヲ聞クニ右兩名ハ元陸軍將校ナルカ青島開戦當時逃レテ天津ニ潜入シ専ラ軍事調査ニ従事セシモ其後哈爾濱ニ赴キ露国側事情及日本ヨリ露国宛軍需品輸送ノ状況偵察ヲナシツツアリシモノニシテ時々天津方面ヘ往復スル人物ナリトノコトナリ又目下哈爾濱ニ居住スル護謨商支那人曾可郷ナルモノハ昨年迄在奉天独商大豊洋行管理人タリシモノニテ目下右独逸人等ノ手下トナリ露国側事情偵察ニ従事シ居ルモノナリトノ噂アル由ニテ引続ギ注意中ナリ

尚関東都督府ヨリ露国側ノ情報トシテ独逸ハ近来多数ノ支那人ヲ使用シ本部ヲ天津ニ設置シ支部ヲ在奉天德享洋行米国籍人 Huga Gunn (元独逸人) 方ニ置キ独逸人指揮ノ下ニ十数名ノ支那人ヲ使用シ露国人特ニ露国軍人ノ出発等ヲ偵察シ又時々人ヲ哈爾濱地方ニ派遣シテ何等カ計画シ居ル模様ナル趣及独逸ガ天津ニ於テ使用スル支那人中馬振東、王尊山、劉達山及陳某等交代ニテ時々奉天ニ来リ Witte ト会合スル模様アル由聞知シタル旨報告有之候右ハ貴国側ノ情報ニ拠ル由ニ付貴方ニ於テハ既ニ御承知ノ義ト存候ヘ共為念併テ及御通報置度右申進旁本官ハ玆ニ重テ閣

テ工夫募集ノ名ノ下ニ支那人団体ノ組織ヲ図リ又ハ露国ノ事情探知ノ為南滿ニ於テ多クノ支那人カ独逸人ノ手先トナリ活動シ居レル旨其他種々ノ情報ヲ齎ラシ右等陰謀防止方ニ関シ我方ノ協力ヲ求メ殊ニ在奉天独逸領事館事務代理「ウィット」ハ是等独逸人ノ首脳トシテ画策ニ従事シ居レルヲ以テ其放逐方ヲ慫慂シ来レルカ如キコトアリシニ付我方ニ於テモ露国側ト連絡ヲ取り十分其真相ヲ突止ムルニ勉メ居レルモ是迄ノトコロ何等の確ナル事実ヲ発見スルニ至ラス右本問題従来ノ成行御参考迄申添ユ

二 新嘉坡ニ於ケル印度兵暴動一件

1011 二月十六日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡市外ニ駐屯ノ印度兵ノ暴動起リ総督ノ懇望ニ依リ日本人義勇兵募集中ナル旨報告ノ件

第二二号

当地市外ニ駐屯セル印度兵約八百今二月十五日午後四時暴動ヲ起シ独逸人ノ捕虜收容所ヲ襲撃シテ監視ノ士官番兵ヲ殺シ在留白人男女銃殺セラレタルモノ十数人アリ午後十一時総督自ラ電話ヲ以テ本官ニ対シ即時日本人義勇兵ノ組織

下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

註 在本邦露国大使ヘ送付セルハ仏文ノモノノミニシテ日本文ハ送付セラレズ

1010 十二月一日 石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛(電報)

滿洲ニ於テ独逸人ガ東支鉄道破壊ヲ計画シ或

ハ露国側ノ事情ヲ偵察シ居ル旨ノ情報ニ付通

報ノ件

第五二二号

貴電第一一九号ニ関シ幣原次官ノ内報トハ十一月四日同次官ヨリ在本邦露国大使ニ対シ長春附屬地内ニ稍怪シムヘキ形跡アル一独逸人アリ又十月九日長春ヨリ奉天ニ来着シタル二名ノ独逸人及哈爾濱居住ノ一支那人ハ独逸人ノ手先トナリ各露国側ノ事情ヲ偵察シ居レル噂アルニヨリ何レモ動静注意中ナル趣在滿帝國領事ヨリ報告アリタル旨ヲ為念内報シタルヲ指セルモノナルヘシ尚又本問題ニ付テハ客年末以来露国大使及在支露国公使ヨリ屢々我方ニ対シ在滿独逸人カ東支鉄道破壊ノ為或ハ馬賊ヲ使喚シ或ハ重賞ヲ約シテ支那人朝鮮人等ノ陰謀団ヲ組織シ或ハ支那人ヲ手先トシ

出来間敷ヤトノ懇望アリ依テ直ニ總督ヲ訪問シ委細情况ヲ聞取リタル後夜半居留民ノ重立チタル者ヲ領事館ニ召集協議ノ結果義勇兵募集ノコトニ決シ徹宵其ノ手配中ナリ尚荒木海軍少佐ハ当地海軍官憲ノ依頼ニ依リ二月十三日当港ヲ発シ香港ヘ向ヒタル軍艦對島ヲ呼戻シ二月十八日当港ヘ入港スヘキ音羽ヲ呼寄せ中ナリ昨日出港シタル仏国軍艦「モンカルム」モ目下呼寄せ中ナル由暴動ノ原因ハ目下尚不明ナルモ大規模ノモノニアラス直チニ鎮静スルナラント思ハル

1011 二月十六日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル印度兵ノ暴動其後ノ状況及日本

人義勇兵ノ市街警備ニ付報告ノ件

第三三号

今二月十六日未明領事官邸附近竝ニ「ドック」方面ニ衝突アリテ更ニ若干ノ死傷者ヲ出セリ暴徒ノ半数ハ帰順シタルモ尚半数ハ頑強ニ抵抗シ市街地ニ向ケ進撃シツツアリ政庁ハ白人ノ婦人小兒ヲ商船ニ避難セシメ人心恟々タリ我義勇兵ハ百三名入募シ日新護謨支配人和田中尉指揮ノ下ニ今朝

市街地ノ警備ニ就キタリ尚更ニ義勇兵百名ノ組織ヲ総督ヨリ懇望シ来リ募集尽力中ナリ暴動ノ原因ニ付テハ諸説紛々トシテ今ニ判明セス尚内偵中本官ハ事務所ニ引揚ケ三井社員郵船社員等ハ海岸ノ安全ナル方面ニ引揚中

1013 二月十六日 在本邦英国大使ヨリ
加藤外務大臣宛

在新嘉坡印度兵離反ニ付帝国軍艦對馬及音羽ヲ
同地ハ呼寄ニ関スル件

British Embassy,
Tokio,
February 16, 1915.

Dear Excellency,

I have received a telegram this evening from Admiral Jerram informing me that owing to disaffection in the Indian Garrison of Singapore he asked the "Tushima" to return there at full speed, and to send the "Otowa" as well. Will Your Excellency be so good as to bring the foregoing to

ツアルモ本隊ハ尚兵管内ニ立テ籠リツツアリ軍艦音羽二月十七日午後七時頃入港直ニ陸戦隊七十五名ヲ上陸セシメ明朝行動ヲ開始スヘク對馬ハ二月十九日午後一時入港ノ筈ナリ仏国軍艦「モンカルム」ハ今朝陸戦隊百八十名ヲ上陸セシメタリ明朝ヨリ叛兵(不明)本拠ノ攻撃ヲ開始スル計畫ナリト云フ我第二回義勇兵今朝更ニ八十五名入募セルカ我義勇兵ノ成績ハ良好ニシテ一般ノ感謝ヲ受ケ居レリ

1015 二月十八日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

印度兵叛乱ニ付新嘉坡ニ戒嚴令ヲ敷キ市中商業
杜絶ノ状況報告ノ件

第一五号

「トムソン」少佐憲兵司令官ニ任セラレ十六日以来当地ニ戒嚴令ヲ敷カル同司令官ハ十七日附ヲ以テ新嘉坡ニテ発行スル一切ノ新聞紙ヲ当地以外ニ配布及販売スルコトヲ禁止セリ市中ハ商業杜絶銀行ハ十五、十六日支那正月ニテ一般休業中ナリシカ十七日平素ノ通開店シタルハ台湾銀行ノミナルモ業務ハ平素ノ十分ノ一ニ過キス香上及「チャータード」其他ノ銀行ハ漸ク両三名ニテ店ヲ開クニ至リ香上ハ為

the knowledge of the Minister of Marine.

Yours sincerely,

(Sd.) Conyngham Greene.

註 本文書ニ小池政務局長ニ依ル左ノ「メモ」ヲ添附シアリ

此亨ハ矢田書記官ヲシテ谷口副官ニ手交シ海軍大臣ニ提出セシメ置キタリ谷口副官ガ矢田書記官ニ語リタル所ニヨレハ我新嘉坡駐在海軍武官ハジェラム中将ノ依頼ニヨリ直接ニ對馬及音羽ニ無線電信ニテ通信シタリ、右ハ本来ナレバジェラム中将ヨリ我海軍省ニ協議シ其上ニテ右兩艦ニ命令スヘキ筈ナルニ付特ニ英大使ヨリ外務大臣ニ通報シ来リタルモノナルヘシトノコトナリ

二月十七日(小池政務局長花押)

1014 二月十八日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル印度叛兵討伐ノ情況及軍艦音羽
對馬ノ行動予定等報告ノ件

第一四号

昨夜来(二月十六日)大ナル衝突ナク叛兵ハ漸次投降シツ

替相場ヲ立テタルモ實際為替ノ取扱ヲナサス何レモ休業同様ノ有様ニテ其ノ他白人ノ大商店ハ店員義勇兵トシテ応召ノタメ閉鎖シ居レリ

1016 二月十八日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル反乱印度兵ノ本拠占領サレタル件

第一七号

暴徒ノ本拠タル「アレキサンダー」兵營二月十八日後二時三十分我軍艦ノ陸戦隊参加セシ部隊ニ依リ占領セラレタリ我方死傷ナンシ尚ホ鎮圧隊ハ四散セル残徒ヲ掃攘中ナリ

1017 二月十九日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在新嘉坡印度兵叛乱ニ付軍艦對馬音羽ヨリ上陸
ノ陸戦隊ノ配置及叛乱ノ原因ニ関シ報告ノ件

第一八号

土屋司令官二月十九日午前十一時對馬ヲ率キテ入港即時曩ニ上陸シタル音羽ノ兵員ヲ合シテ百六十名ノ聯合陸戦隊ヲ

組織シ飯田海軍少佐之レカ指揮ニ任シ直ニ配置ニ付ケリ暴徒残數約二百八十名ハ所々叢林中ニ潜伏抵抗シツアリ今回暴動ノ原因ニ付テハ今尚不明ナルモ捕虜收容所ヨリ逃亡シタル「エムデン」ノ捕虜十六名カ宗教關係ヲ利用シ印度兵ヲ使喚シタルモノノ如シ政庁当局者ハ此ノ暴動カ印度其ノ他ニ於ケル同族ノ暴動ヲ誘発スルコト竝ニ当地ヨリ逃走シテ半島ニ入りタル叛乱兵カ半島各地ノ同族ヲ教唆シテ暴動ヲ起サシムルコトヲ憂慮シ極力当地情報ノ外部ニ洩ルルコトヲ防遏シ居ルモノト察セラル

一〇一八 二月二十日 在香港今井總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡動乱ト關聯シ香港ニ於テモ印度兵ニ對シ
嚴重警戒中ナル旨報告ノ件

第五号

新嘉坡動乱ト關聯シテ当地ニ於テモ警戒ヲ嚴ニシ火藥庫其他ノ要所ハ印度兵ニ代フルニ水兵ヲ以テシ万一ニ備ヘツツアリ駐屯軍司令官ノ語ル所ニヨレハ当地ノ印度兵ハ新嘉坡ト異ナリ動乱ノ虞ナシト信スルモ英兵寡少ノ折柄ニモアリ且近々印度兵ノ交代ヲ發表セハ尚更警戒ノ要アリ就テハ第

音羽兩鑑々長モ之ニ出席シタリ Ridout 中佐ハ總督ガ
Johore ニ趣キタル為メ自ラ出席スルコト能ハサルヲ遺憾
トスル旨ヲ述ヘ政庁側ヲ代表シテ厚ク感謝ノ意ヲ表シタ
リ

一〇一〇 三月二日 在本邦英國大使ヨリ
加藤外務大臣宛

新嘉坡ノ騷擾鎮庄ニ關スル對馬及音羽ノ援助ニ
付英國政府ヨリ日本政府ヘ謝意表明ノ件

No. 37.

Tokio, March 2, 1915.

With reference to my Note No. 35 of the 26th
ultimo, I have the honour acting under instructions
from His Majesty's Principal Secretary of State
for Foreign Affairs to express to Your Excellency
and through Your Excellency to the Imperial Gov-
ernment the thanks of His Majesty's Government
for the assistance rendered by His Imperial
Japanese Majesty's Ships "Tushima" and "Otowa."

三艦隊司令官ノ命ニ依リ此際特ニ來港セシメラレタル明石
ノ碇泊ニ對シ衷心感謝スト述ヘタリ

一〇一九 二月二十一日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新嘉坡ニ於ケル印度兵叛乱ニ際シ応急ノ防備ニ
任ジタル我義勇隊解散ノ件

第二一号

我聯合陸戰隊既ニ上陸シ且昨二月廿日夜蘭貢ヨリ英兵五百
到着セルアリ市中尚所々ニ銃聲聞コエ警戒ノ必要去ラサル
モ我義勇兵ハ咄嗟応急ノ防備ニ任スル趣意ヲ以テ徵募シ
タルモノニシテ警戒区域漸時拡張スルト共ニ当政庁側ヨリ
ハ稍ヤ前線ト認ムヘキ一地点迄配置ヲ希望セラルル処義勇
兵百八十八名中軍事教育ヲ受ケタル者約四分ノ一ニ過キス
他ハ銃ノ取扱位ヲ心得居ルモノニ過キササルヲ以テ永ク警戒
ノ任ニ當ラシムルハ得策ニアラスト思料シ二月二十日在留
民ノ重立チタル者ト協議ヲ遂ケ政庁側ノ意嚮ヲ確メタル処
撤退差支ナシトノコトナリシヲ以テ二月廿一日正午解隊式
ヲ舉行セリ同式ニハ英國支那艦隊司令長官 Jerran 海軍
中將、陸軍總指揮官 Ridout 中佐、土屋司令官竝ニ對馬、

in quelling the recent disturbances at Singapore.

I avail, &c.

W.C. Greene.

一〇二一 三月三十日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
加藤外務大臣宛

印度兵ノ暴動ニ關シ報告書提出ノ件
附屬書 在新嘉坡印度兵暴動事件報告

機密公信第一二号 (四月二十六日接受)

大正四年三月三十日

在新嘉坡

領事 藤 井 実(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

客月十五日当新嘉坡ニ突発シタル印度兵暴動事件ニ關ス
ル報告別冊提出申進候間御査閱相成候様致度此段申進候

写送附先

在 英 大 使

在香港總領事

在カルカッタ總領事

在孟買領事

敬具

(附屬書)
別 冊

在新嘉坡印度兵暴動事件報告

目 次

- 第一、顛末ノ概要
- 第二、暴動ノ原因
- 第三、邦人義勇兵ノ組織、勤務及解隊
- 第四、帝国海軍陸戰隊ノ上陸、行動並其ノ閱兵式
- 第五、各国海軍陸戰隊ノ上陸、特務警士ノ徵募及蘭貢英兵ノ到着
- 第六、暴徒ノ死刑執行ト当地方回教徒ノ惡感並之ニ対スル政庁ノ鎮撫策
- 第七、結 論

第一、顛末ノ概要

大正四年二月十五日新嘉坡郊外「アレキサンドラ」兵營ニ駐屯セシ印度兵ノ一部暴動ヲ起シ火藥庫ヨリ彈藥ヲ奪ヒ内約二十五名許一団トナリテ午後三時三十分頃先ツ市内「タングリン」兵營内ニ在ル独逸人俘虜ノ収容所ヲ襲撃シ所長「ジャブール」Gerard 大尉其ノ他ノ衛兵ヲ銃殺シ死者ノ武器ヲ直ニ軍艦「エムデン」ノ俘虜等ニ交付シタルカ同所

ルモノモアルヘク又射撃ヲ恐レテ逃ケ廻レル輩モアリシモノノ如シ

本官カ總督ノ懇請ニ基キテ組織シタル邦人義勇兵百八十六名ハ翌十六日ト十七日トニ亘リテ直ニ中央病院 General Hospital 外市内ニ要所ノ警戒任務ニ就キ投降者十数名武器彈藥其ノ他ノ鹵獲品ヲ得其ノ勇氣ト紀律トニ於テ頗ル在留内外人ノ信頼ヲ受ケ其ノ稱賛ヲ博セリ英艦「カドマス」ノ陸戰隊九十名我軍艦音羽及對馬ノ陸戰隊百六十名仏艦「モンカルム」ノ陸戰隊百九十名及露艦「アリヨール」ノ陸戰隊三十名相次テ上陸シ二十日ニハ蘭貢ヨリ英兵(白人)六百到着シタリ而シテ在留英人男子ノ殆ト全部ハ義勇兵及特務警士トシテ戰線ニ立チ又ハ市中ノ警衛ニ任シ在留ノ米人(約十名)和蘭人其ノ他モ亦各個ニ募集ニ応シテ特務警士トシテ市内ノ警戒任務ニ就キタリ

十八日暴徒ノ本拠タリシ「アレキサンドラ」兵營カ日本陸戰隊ノ参加セル聯合軍ニヨリテ些ノ抵抗ナク我手ニ歸スルヤ暴徒ハ四方ニ散乱シ熱帯ノ密林中ニ潜伏シテ反抗シツツアリシモ漸次殺傷捕縛セラレ殘党数名ハ柔佛海峡ヲ越エテ今ヤ馬來半島ニ潛入シオレリ

十五日及十六日ノ兩夜ハ暴徒大挙シテ市中ニ侵入セントス

ノ衛兵タリシ印度兵ノ一部ハ即時暴徒ニ左袒シタリ當時収容所内ニハ約三百名ノ独逸人(大部分ハ開戦後離隔セラレタル普通人)アリシカ「ベンマイヤー」商会ノ支配人「ディーン」Diehn ヲ首メ「エムデン」ノ俘虜十六名其ノ他数名ノ独逸人ハ此際速ニ逃走シタリ(内八名ハ其ノ後捕縛セラレタルモ他ハ總テ蘭領ニ遁レタルモノノ如シ)暴徒ノ別隊ハ他ノ方面ヨリ市中ニ侵入シ途上行逢ヒタル散步中ノ英人男女ヲ手当リ次第ニ殺傷シ午後五時ニ至リ一隊ハ初メテ同兵營内ニアル其ノ隊長「マルティン」中佐ノ官邸ヲ包圍襲撃シタルカ宗教ヲ異ニセル印度兵及馬來聯邦ノ白人義勇兵ノ一部ヲ合シテ約八十五名之ニ対シテ防戦シタリ

当日普通英人ノ殺害セラレタルモノ約十七名ニ達セリ

(註) 事件中死者ノ全數ハ兵員及普通人ヲ合シテ四十余名

ニ達シ暴徒ノ死者約五十名ニ及ヘリ

暴徒ノ數ハ

第五輕歩兵聯隊 The Fifth Light Infantry 八三〇名
馬來聯邦守備聯隊 Malay States Guides 一一三名
隨 從 者 六六名

合計千九名ナルカ中ニハ叛意ナキモ止ムヲ得スシテ加担セ

ル形跡アリシモ防戦其ノ宜シキヲ得タル為ト暴徒側ニ指揮統一ヲ缺キタル為其ノ事ナカリシハ實際慘害ヲ少ナカラシメタル点ニ於テ一般ノ幸福ナリキ

十六日總督ハ在留内外白人ノ婦女小兒ニ対シ港内ノ避難船(Mtie 号外一艘)ニ避難スヘキヲ命シタルカ最初ノ十日間位ハ民心一般ニ恟々トシテ商業ノ杜絶市場ノ沈滞ヲ免カレサリキ

十六日夜本官ハ市中一般ノ人心余リニ恟々トシテ流言蜚語盛ナリシ狀況ニ鑑ミ在留邦人ニ対シテ為念左ノ如キ諭告ヲ配布セシメタリ

今回当地ノ暴動ハ当局機宜ノ処置ニ依リテ速ニ鎮定スヘキヲ信ス此題妄リニ流言浮説ニ惑ハサレ輕挙事ヲ誤ル勿ランコトヲ望ム目下帝国船舶ノ当港ニ碇泊セルモノ吉林、富国、天城山丸ノ三艘アリ帝国軍艦モ亦不入日港スヘク更ニ又半島方面モ極メテ安全ナルヲ以テ本官ハ当局官憲ト連絡ヲ保チ萬一ノ場合ニ際シテハ適宜避難ノ方法ヲ指示スヘキモ刻下未タ切迫セル狀態ニアラサルヲ以テ各自其ノ業務ヲ荒怠スル勿ランコトヲ希望ス

二十日ニ至リ市内一部ノ安全布告セラレ其ノ区域内ニ婦女及小兒ノ帰還ヲ許シ漸次該区域ヲ擴張シテ二十五日頃ヨ

リ市中ハ全然平穩ニ復セリ(市中ノ狀況等ニ関シテハ往電第一二号乃至第一五号第一九号第二二号及第二三号参照ヲ乞フ)目下殘党尙數名ハ未タ縛ニ就カス前述ノ如ク海ヲ越エテ馬來半島其ノ他ニ遁入セルカ如シ但當市ノ戒嚴令ハ未タ之ヲ解クニ至ラス依然トシテ軍令ノ下ニアリ是レ回教徒ニ對スル萬一ノ警戒ナルヘシト思考ス

暴徒ノ首領以下三十二名ハ軍法會議ニ於テ審理ノ結果既ニ死刑ヲ宣告セラレ二月二十三日、三月八日、二十二日及二十五日ノ四回ニ亘リ當地監獄外ニ於テ公衆ノ面前ニ於テ銃殺セラレ其ノ罪稍輕キモノハ終身又ハ數年ノ入獄ニ処セラレ其ノ他ノ數百名ニ對シテハ目下尚審理ノ進行中ナリ

第二、暴動ノ原因

這般暴動ノ原因ニ関シテハ事件ノ發生如何ニモ突如タリシ爲当初ハ政庁当局者ニ於テスラ全然之ヲ詳カニスルヲ得サリシモ其ノ後巨魁其ノ他ノ就縛及各方面ニ於ケル報道ノ蒐集ニヨリテ漸ク事件ノ真因ヲ確ムルコトヲ得タルカ如シ而シテ英國官憲ノ公然發表セル所ニ依レハ事件ハ全然地方的ノモノニ屬シ宗教ト何等ノ關聯アルモノニアラス暴動ノ原因ハ暴動爆發ノ少シ前ニ行ヒタル彼等一部ノ進級ニ對スル不平ニ他ナラストノ事ナリ回教ノ本山タル土其古ヲ敵ト

(一) 暴徒側ニ於テモ亦俘虜独人中ヨリ指揮者ヲ得ント企テタル疑ナキニアラサルコト

(二) 印度兵中ニ於テモ今回暴動ヲ起セシハ「パンジャブ」及「シーク」Punjab & Sikh 族中ノ回教徒ノミニシテ同シク印度兵ニテモ宗教ヲ異ニセルモノハ之ニ加ハラサリシコト

(三) 當地官憲側ノ者ヨリ最近聞知スル所ニ依レハ前記「デーン」ハ兩三年前ヨリ當地ニ於テ最モ有力ナル「ペンマイヤー」商会ノ支配人トシテ來任シ(或ハ独逸參謀本部ノ囑託ヲ受ケ居リシトノ説アリ現ニ「エムデン」暴行當時之ニ情報ヲ供給シ居リシハ事實ナル由)平素其ノ行動極メテ敏捷辣腕ナリシカ暴動突發ノ數日前巨額ノ現金ヲ銀行ヨリ引出シタル事實アリ當時其ノ筋ノ者ハ其ノ何故ナルカヲ不思議ニ思ヒ居リシ趣ナルコト

(四) 最初收容所ノ襲撃アリシ際「デーン」及一部ノ独逸人ハ少シモ駭キタル様子モナク敏捷ニ旅装ヲ整ヘ武器ヲ受取り直ニ收容所ノ事務室ニ赴キテ一切ノ書類ヲ檢査シ(以上ハ當時收容所内ニアリシ邦人理髮師兩名ヨリモ亦同様ノ實驗談ヲ聴取シタリ)夜ニ入りテ悠々同所ヲ脱出シ暴徒約二十五名ニ護衛セラレテ「パシル、パンジャン」Pasir

シツツアル此際英國官憲側ノ公表トシテハ寧ロ当然ノ事ナルヘク政策上斯クセサルヘカラサルハ何人ト雖首肯スル所ナルヘシ乍然當時往電第一八号(二月十九日發)及第二〇号(二月二十日發)ニ於テモ申進シタル如ク這般ノ暴動カ前記進級ニ對スル不平ト謂フカ如キ單純ナル原因ニ依リテ爆發セルモノニアラサルナリ素ヨリ各種ノ情況ヨリ推断スルニ本件カ全然地方的ノモノタリシハ明カニシテ印度其ノ他トノ連絡アル大規模ノモノニアラサリシコトハ其ノ全然計畫ト統一トヲ缺キタル暴徒ノ行動ニ徴スルモ直ニ之ヲ認メ得ヘキモ然カモ當地ノ俘虜收容所ニ離隔セラレ居リシ「デーン」其ノ他ノ独逸人カ脱出ノ目的ヲ達センカ爲ニ宗教關係ヲ利用シテ巧ニ回教徒タル印度兵ヲ煽動使喚シタル処印度兵中回教ヲ奉スルモノハ彼等ノ間ニモ土其古トノ開戦以來豫テヨリ異教徒タル英國ニ反抗ノ素志アリシニヨリ效ニ彼等カ回教徒ノ保護者ト信スル独逸人ノ使喚ニ遭フテ決然トシテ立チシモノナルヘシ此ノ辺ノ消息ハ

(一) 暴徒ノ一隊カ最初先ツ独逸俘虜收容所ヲ襲撃シテ先ツ前記「デーン」ヲ救出シ其ノ他ノ俘虜ニ武器ヲ与ヘ俘虜ノ一部即「エムデン」ノ水兵及二三ノ独逸人ハ「デーン」ト共ニ遂ニ脱出逃走ノ目的ヲ達シタルコト

Panjang ヨリ四百弗ヲ与ヘテ小舟ヲ僱シ同夜即十六日ノ午前三時半頃同所ヲ出發シテ蘭領「カリモン」Karimon 島ニ至リ(Pasir Panjang ヨリ Karimon 島迄ハ普通小蒸汽船ニテ約二時間ノ航程ナリ)同島ヨリハ豫テ手配シ置キタル小蒸汽船ニテ「スマトラ」島ノ「ベンカリス」Bengkalis ニ逃カレタル事實最近ニ至リ判明セルコト(以上當地警察部員ノ談)

(二) 若シ果シテ単ニ進級処分ニ對スル不平ニ過キストセハ先ツ其ノ隊長ヲ襲撃スルヲ普通ノ順序トス然ルニ實際暴徒ノ一隊ハ彈藥庫ヨリ彈藥ヲ奪取シタル後直ニ先ツ約二哩ヲ距ツル俘虜收容所ヲ襲ヒテ「デーン」以下ヲ救出シタルモノナルカ其ノ時刻ハ十五日午後三時半頃ナリキ而シテ暴徒カ其ノ聯隊長「マルティン」中佐ヲ同一兵營内ノ官邸ニ襲撃シタルハ漸ク同日午後五時頃ナリシコト

等ノ事實ヨリ推究スレハ容易ニ本件ノ真相ヲ捕捉シ得ヘシト信ス若シ夫レ

(三) 独逸俘虜ト外部トノ平素ノ聯絡交通ノ容易ナリシコトハ收容所ノ番兵タル印度兵ノ多數カ暴徒ト同旅同宗教ニシテ襲撃起ルヤ直ニ鋒ヲ逆ニシテ暴徒ニ与セシ一事ニヨリテモ容易ニ了解シ得ヘク且ツ收容所ノ支那人「ボーイ」二十

三名ハ日々総テ何等ノ拘束ヲ受ケスシテ外部ヨリ通勤シ居リシナリ

(註)

俘虜收容所襲撃前後ノ実況ハ同所設置当初ヨリ同所ニ起臥シ當時モ同所内ニテ仕事シツツアリシ邦人理髮師今村恩田両名ヨリ詳細聴取セリ

而シテ最近判明セシ所ニ依レハ前記「ディーン」ハ馬來人マンソー Man Soo ナル者ヲ使用シテ外部ニテ事ニ当ラシメオリシト謂フ最後ニ

(ハ) 当地政庁ハ俘虜收容所ニ離隔セシ当地独逸人ノ全部二百七十余名ヲ今期(三月三十日)汽船「モントロ」Montoro 号ニテ濠洲ニ輸送シ残余ノ五十名モ亦次ノ便船ニテ同シク之ヲ濠洲ニ送ル管ニテ結局当地ニハ独逸人一名ヲモ留メサルコトトナスヘシト謂フ

要之暴動ノ真因ハ進級処分ニ対スル不平ト云フカ如キ單純ナル理由ノミニ基キシモノニアラス回教徒タル印度兵カ宗教上ノ關係ニ於テ独逸人ノ煽動ニ応シテ遂ニ最後ノ決心ヲナシタルモノナルヘク其ノ以前印度人側ニモ幾分英國ニ反抗セントスル素志ナキニアラサリシモノナルヘシ

結局極刑ノ災禍ヲ受ケシモノハ是等回教徒タル印度兵ニシテ彼等ヲ犠牲トシテ逃走ノ目的ヲ達シタルモノハ收容所ニ

キ詳細情況ヲ聴取シタル上断然總督ノ懇請ヲ容レテ其ノ組織ニ尽力スルコトニ決シ即時在留邦人ノ重立チタル者ヲ領事館ニ召集シテ熟議シタル後

一、邦人義勇隊ハ可成一団トシテ勤務セシメ直接ノ指揮ハ之ヲ邦人中ノ豫備陸軍將校ノ下ニ置クコト
二、帝國軍艦來着シテ其ノ陸戰隊ノ上陸スル迄ヲ差当リノ任務期限トスルコト

三、萬一義勇隊員中ニ死傷者ヲ生シタル場合ニハ總テ当地ノ英國義勇兵ニ対スルト同等ノ待遇ヲナスコト
四、糧食其ノ他一切ノ実費ハ之ヲ政庁ニテ負担スルコト
等ノ條件ヲ提出シテ先方ノ快諾ヲ得タリ尚為念我義勇隊ノ勤務方面ニ関スル大体ノ方針ヲ確メタルニ主トシテ市内ノ秩序ヲ維持シ例ヘハ市中ノ重要ナル建物ヲ防護スル等市ノ警衛ニ任スルモノニシテ前線ニ配置スルモノニアラサル旨明言セリ於是一同徹宵義勇隊員ノ募集ニ尽瘁シ一応簡單ニ身体ノ検査ヲ行ヒ其ノ略歴ヲ質問シタル後翌十六日早朝募集シ得タル人員百四名ニ達シ其ノ内約六十名ハ兵籍ニ在ルモノニシテ他ハ多少軍事教育ノ素養經驗アリテ銃ノ操縦ニハ差支ナク分隊長ニハ悉ク豫備ノ下士ヲ配スルヲ得タリ

離隔サレオリシ独逸人ノ一部ナリトノ事ニ帰着スヘシ而シテ原因ノ宗教關係ナリシコトハ英國官憲ノ公表ヲ憚ル所ナルモ是レ政策上寧ロ当然ノコトナルヘシ

將又何故ニ客月十五日ニ爆發セシヤニ関シテハ當時彼等ハ既ニ香港駐ノ事ニ決シオリ港内ニ碇泊セル運送船ニ向ツテ漸次彈藥銃器等ノ運搬セラルルヲ目撃セシ彼等ハ今ニシテ起タサレハ遂ニ其ノ機ヲ逸スヘシトナセルニ因ルモノト察セラレ

第三、邦人義勇兵ノ組織、勤務及解隊

二月十五日暴動突発ノ夜午後九時半頃總督秘書官自動車ニテ本官官邸ニ來訪危険ニ付避難スヘキ一言ヲ殘シテ去リタル後同十一時頃總督自身電話ニテ(此ノ如キハ一般ニ対スル總督平素ノ態度ニ徴シテ蓋シ稀有ノコトニ屬ス以テ當時總督カ如何ニ邦人ニ倚賴セシカヲ知ルニ足ル)本官ニ対シ事態容易ナラス暴徒ハ市街ヲ襲撃スル為前進シツツアル有様ナルニモ拘ラス防禦兵力充分ナラサレハ即時邦人中ヨリ義勇兵ヲ組織シ得サルヤトノ依頼アリ且ツ本官夫妻ニ対シ直ニ總督邸ニ避難方ヲ勧誘シタルヲ以テ兎ニ角秘書官搭乘ノ出迎自動車ニテ

御真影ヲ領事館ノ事務所ニ移シ奉リタル後總督ノ官邸ニ赴

總督ノ再度ノ懇請ニ依リ翌十七日更ニ八十二名ノ追加ヲ募集シタルカ第二回ノ分ハ第一回ニ比シ兵員トシテノ智識ト經驗トニ於テ大ニ劣レル所アリシモ尚下士以下兵籍ニ在リシモノ十数名アリキ

右合計百八十六名ノ義勇兵ハ政庁ヨリ武器彈藥ノ供給ヲ受ケ衛生隊員(安藤「ドクトル」)及嘗テ陸軍看護卒タリシ者(三名)及岩村陸軍一等計手ト共ニ和田(義正)豫備陸軍歩兵中尉(其後川上同中尉德川同少尉山川元歩兵中尉之ヲ補助セリ)指揮ノ下ニ十六、十七兩日ニ亘リテ各其ノ配置ニ就キ市街ノ警備ニ任シタリ

而シテ邦人義勇隊ノ配置ニ関シテハ最初前線ニ就カシメストノ明言アリシニモ拘ラス愈々諸隊總指揮官タル「ライダウト」中佐 Brigadier General Lieut. Colonel D. Ridout ノ配置セントシタル我義勇隊ノ位置ハ最モ危険ナル第一線ナリキ是レ畢竟スルニ邦人義勇隊ニ対スル彼等ノ信頼ノ大ナリシ結果ニ他ナラスト雖本官ハ可成邦人ノ死傷ヲ避クルノ必要ヲ認メ同中佐ニ対シ其ノ当初ノ言明ト異ル所以ヲ指摘シタルニ先方ニ於テモ直ニ快ク之ヲ諒トシ結局中央病院 General Hospital 其ノ他市街ノ警備トシテ特務

警士 Special Constables 同様ノ任務ニ就クトナリタリ

前記病院ニハ当初ノ数日間連日連夜暴徒ノ襲来アリ我義勇隊ノ紀律アル勇敢ナル防戦ニヨリテ遂ニ之ヲ撃退シ我手ニ収容シタル投降者十数名ニ達シ一般内外人殊ニ病院ノ医員竝患者ノ深キ感謝ヲ受ケタリ

帝國軍艦音羽ハ二月十七日同対馬ハ十九日何レモ当地ニ入港シテ陸戦隊ヲ上陸セシメ次テ二十日夜蘭貢ヨリ英兵六百名到着シ市ノ防備モ既ニ充実シ当初政庁ト交渉シ置キタル時期ニモ到達シタルノミナラス元来邦人義勇兵ノ大部分ハ僅ニ銃ノ操縦位ヲ必得居ルニ過キス(此ノ点ハ他ノ英人及外人ノ特務警士ニツキテモ同様若ハ其ノ以下ナリキ)且ツ彼等ノ多クハ所謂内地ノ南洋熱ニ驅ラレテ当地方ニ渡来シタル者又ハ濠洲ブルーム Broome 地方ヨリ逐ハレ来レル真珠業者等ニシテ差当リ衣食ニ窮シオリシ者ノミナルニモ拘ラス咄嗟ノ際一々充分ニ身元調ヲナスノ違ナクシテ徵募シタルモノナルヲ以テ永ク彼等ヲシテ斯ノ如キ勤務ヲ継続セシムルハ総テノ点ニ於テ不得策ナリト認メ在留民ノ重立者トモ協議ノ上政庁ニ交渉シテ承諾ヲ得愈二月二十一日ヲ以テ解隊式ヲ行ヒタリ

田指揮官ヲ通シテ充分ニ我義勇隊ノ立場ヲ了解セシメ必要ヲ越エテ猥リニ暴徒ヲ殺傷スルコトナク可成ンハ彼等ヲ生擒スルノ手段ヲ取ルヘキ様内々論達シタルカ幸ニ邦人ノ手ニテハ一人モ彼等ヲ殺傷セス又当方ニモ何等ノ死傷者ヲ出ササリキ(因記我第三艦隊司令官モ亦右ト同様ノ内命ヲ陸戦隊ニ与ヘタル由ナルカ同様彼我ノ間ニ人命ノ損傷ナカリキ尚仏国陸戦隊ハ暴徒一名ヲ殺シ一名ヲ傷ケ露国陸戦隊ハ隊員二名重傷ヲ負ヘリ)

第四、帝國海軍陸戦隊ノ上陸、行動竝其ノ関

兵式

二月十五日暴動ノ起ルヤ当地駐在荒城海軍少佐ハ英国支那艦隊司令長官「ジェーラム」中將ノ依頼ニ基キ当港ニ向ヒ航行中ナリシ軍艦音羽ニ急航ヲ促シ同時ニ二日前(十三日)当地発内地帰航ノ途ニアリシ第三艦隊ノ旗艦対馬ニ再来ヲ求メタル結果音羽ハ同十七日午後七時半入港直ニ陸戦隊八十名ヲ上陸セシメタルカ艦長森本中佐ハ荒城少佐及陸戦隊指揮官タル今泉大尉ト共ニ先ツ本官ヲ来訪シ陸戦隊ノ上陸要求承諾ノ可否ニ関シ本官ノ意見ヲ徴シタルニ依リ本官ハ当時ノ情況ヨリ推シテ先方ノ要求ヲ快諾スル方可ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ置キタリ

当日ハ諸隊総指揮官「ライダウト」中佐英国支那艦隊司令長官「ジェーラム」中將 Sir Martin Jerram 及幕僚第三艦隊司令官土屋(光金)少將及幕僚別府対馬艦長竝森本音羽艦長等臨席シ先ツ本官ヨリ解隊式举行ノ旨ヲ告ケ其ノ勤勞ヲ謝シ次ニ在留邦人ヲ代表シテ鈴木豫備海軍々医總監ノ謝辞アリ「ライダウト」総指揮官ノ関兵ニ次テ其ノ感謝演説アリ総督カ柔仏^{ジョーブル}ニ赴キテ不在ナル為親シク臨場シテ謝辞ヲ述ヘ得サルヲ頗ル遺憾トスル旨ヲ語り邦人義勇兵ノ勤務カ市ノ防備及警備上極メテ大ナル価値アリシコトヲ陳ヘテ衷心ノ謝意ヲ表シタリ

式後在留邦人ノ有志ハ義勇隊員一同ヲ播磨「ホール」ニ招待シ酒肴ヲ供シテ其ノ勞ヲ犒ヒ

天皇陛下ノ萬歳ヲ三唱シテ散会セリ

尚義勇兵トシテ勤務セシ者ニ対シテハ本官ヨリ特ニ證明書ヲ交附シ且ツ在留邦人有志ノ贖金ヲ以テ不取敢隊員一同(幹部ヲ除ク)ニ一日一弗ノ割合ヲ以テ慰勞金ヲ給与シタリ

英国官憲ハ暴徒カ武装ナキ普通人ヲ殺傷セル態度ニ酬インカ為当方ニ於テモ見当リ次第暴徒ヲ射殺シテ仮借セサル様一般ニ訓令ヲ發シタルモ本官ハ当初ヨリ義勇隊員ニ対シ和

音羽ノ陸戦隊ハ翌十八日未明英艦「カドーマス」ノ陸戦隊及英人義勇兵ト協力シテ暴徒ノ本拠タル「アレキサンドラ」兵營ヲ攻撃シ何等ノ抵抗ヲ受ケスシテ之ヲ占領シタルカ翌十九日朝上陸セシ対馬ノ兵員ト共ニ聯合陸戦隊(合計百六十名携帶用無線電信機ヲ以テ旗艦ト通信ノ連絡ヲ保チ飯田少佐指揮ニ任ス)ヲ組織シ爾後前後兵營ニアリテ附近ノ索敵ニ従事シ投降者約二十武器彈藥被服等若干ヲ鹵獲シタリ

我海軍陸戦隊ノ到着ハ当地内外官民ニ多大ノ安心ヲ与ヘ港内避難船ニアリシ者ノ如キ帝國軍艦ノ入港スルヤ歡呼シテ之ヲ迎ヘ「ヤング」総督、「ジェーラム」司令長官及「ライダウト」総指揮官ヲ首メ文武ノ諸官悉ク感謝ノ意ヲ表シ殊ニ総督ノ態度ノ如キ嘗テ見サル慰懃ヲ極メ土屋司令官及本官ニ対シ繰返シ謝辞ヲ述ヘタリ

我陸戦隊ノ指揮ニ関シテハ最初「ブラウンロー」Brownlow 中佐ノ下ニ行動セシカ後直接總指揮官ノ下ニ行動スルコトナリ配置其ノ他ニ関シテモ先方ヨリ特ニ命令ナル語ヲ避ケ希望ナル文字ヲ用ユルコトニ注意シ居タル由ナリ

土屋司令官ハ陸戦隊員ニ対シ特ニ注意ヲ与ヘ印度兵ニ対シ

テハ吾人何等ノ遺恨アルニアラサルニ付当方ヨリ好テ彼等ヲ殺傷セス可成投降セシムルノ手段ヲ取ルヘキ様内訓シタル由ナルカ幸ニシテ彼我共ニ殺傷ナク暴徒約二十名ハ安心シテ我軍ニ投降シタルモ英国兵ニ引渡サルルニ及ンテ投降者ハ一芥ニ意外ノ感ニ打タレ同時ニ英兵ニ対シ嫌惡ノ態度アリシト云フ

我海軍陸戰隊ニ対シテモ動モスレハ最モ危險ナル配置ニ就カンコトヲ希望セシ由ナルモ我指揮官ハ其ノ都度体良ク之ヲ峻拒シタル趣ナリ

二月二十五日我聯合陸戰隊ノ任務ヲ解キ海岸「クリッケット、グラウンド」ニ於テ總督親ヲ閱兵式ヲ舉行シタルカ閱兵後總督ハ土屋司令官ニ対シ左ノ如キ感謝演說ヲナシタリ

總督ノ演說 訳文

土屋司令官、士官及水兵諸君、予ハ今ヨリ僅カニ二日前即チ二月二十三日ノ朝「ウェゲー」司令官カ此ノ地ニ上陸セシメテ諸隊總指揮官ノ処理ニ委セラレタル我同盟国タル仏蘭西ノ軍隊ヲ閱兵シタリ

右ノ閱兵ハ同軍隊カ再ヒ乗艦シテ出港スルノ前ニ於テ之ヲ行ヒタルカ本日玆ニ当地ニ上陸シテ援助ヲ与ヘラレタ

密接ノ通信ヲナシツツアリシカ同中將ハ貴司令官及其ノ他ノ貴国民カ開戦以來總テノ行動ニ於テ同中將ト共同セラレタル際最モ親善ナルモノアリシコトヲ種々ノ機會ニ於テ陳ヘラレタルコトヲ土屋司令官ニ告ケントス

終リニ蒞ミ予ハ又日本領事ニ当殖民地ノ最モ厚キ謝意ヲ表セントス領事ハ本月十五日ノ夜自国民中ヨリ約二百名ノ義勇兵ヲ募集シ以テ其ノ為シ得ヘキ勤務ニ於テ軍隊ヲ援助シタリ其ノ援助ハ誠ニ価値アルモノナリシノミナラス其ノ行動ハ此ノ吾人ノ同盟国民ト吾人トノ間ニ此ノ殖民地ニ於テ存スル絶好ノ感情ヲ表彰スルモノナリ

司令官ヨリ予ハ再此ノ殖民地ニ代ッテ貴司令官、其ノ士官及水兵諸君ニ向ッテ感謝ノ意ヲ表セントス予ハ善ク知悉セリ当殖民地ハ吾人ヲ援助センカ為ニ来航セシ良艦ヲ常ニ記憶シ異日此ノ港ニ再来セラルルニ当リテハ厚ク之ニ驩迎ノ意ヲ表スヘキコトヲ

土屋司令官ハ之ニ対シ次ノ如キ答辭ヲナシタリ

土屋司令官答辭

總督閣下本月十五日勃発セル当地暴動ハ事全ク意想外ニ屬シ当地在住内外国官民ノ保護及秩序ヲ維持スル為メニハ多大ノ御心勞アリシコト御同情ニ堪ヘサル所ナリ當時

ル士官及水兵ヲ閱兵スルハ諸君カ直ニ出港セラレサルニセヨ蓋シ差支ナキコトナルヘシ

予ハ先ツ英国皇帝陛下ノ代表者トシテ次ニ司令長官並總指揮官閣下及殖民地ノ人民一般ニ代ッテ貴司令官、士官及水兵諸君ニ向ヒ諸君ノ吾人ニ致サレタル優秀ニシテ価値アリシ勤勞ニ対シテ吾人ノ深厚ナル謝意ヲ表セントス

貴軍隊並仏国軍隊ノ士官及水兵諸君中ニ一ツノ死傷者ヲ出タササリシハ予ノ衷心喜ヒニ堪ヘサル所ナリ

貴国民ハ吾人共同ノ敵タル独逸ノ東洋ニ於ケル強力ノ要塞タル青島ヲ攻略セラレ其ノ奪取ハ貴国民独特ノ秩序整然トシテ間然スル所ナキ方法ヲ以テ行ハレタリ而シテ予ハ右攻囲戦中我皇帝陛下ノ軍隊ノ一部カ貴国民ト共同シテ戦ヒシコトヲ悦フモノナリ

我海軍大臣「ウァンストン、チャーチル」氏ノ言ヲ藉リテ謂ヘハ貴国艦隊ハ太平洋ニ於テ「最モ効果アリタル」艦隊ナリ此ノ「最モ効果アリタリ」ト云フ語ハ強キ語ニシテ其ノ発言セラレシ際下院ニ於テ最モ大ナル喝采ヲ以テ迎ヘラレタリ

予ハ「サー、マルティン、ジェーラム」中將ト從來互ニ

我第三艦隊ハ任務ノ都合上不幸ニシテ一艦ノ当地ニ在泊スルモノナカリシト雖モ恰モ南航ノ途ニアリシ一艦ハ先ツ急航シテ十七日薄暮来着シ次テ他ノ一艦ハ十九日午前ヲ以テ入港シ兩艦ヨリ揚陸セル少数ノ陸戰隊員ヲ以テ住民ノ保護ト秩序ノ維持トニ幾分ノ御幫助ヲ与ヘ得タルハ本職ノ大ニ光榮トスル所ナリ

爾後日ヲ閱スルコト僅カニ一週日ヲ出テサルモ諸般ノ施設宜シキニ適ヒ今ヤ暴徒ハ漸次其ノ勢ヲ収メ遠ク郊外ニ去リテ殆ント危險ノ情態ヲ脱スルノ時機ニ達シタルヲ以テ我陸戰隊ハ最早其ノ必要ヲ認メサルニ至リ本日ヲ以テ之ヲ各艦ニ收容セントスルニ臨ミ閣下ハ特ニ英国皇帝陛下ノ御名ヲ以テ玆ニ盛大ナル閱兵式ヲ舉行セラレ且ツ鄭重ナル御挨拶ヲ辱フシタルハ当隊ノ最モ光榮トスル所ナリ尚軍艦ハ多分今暫ラク当地ニ在泊スヘキヲ以テ萬一我乗員ノ助力ヲ要セラルルコトアラハ悦ンテ直ニ之ニ応スルノ準備ヲ怠ラサルヘシ

終ニ臨ミ我陸戰隊カ歴山兵營滞在中貴官憲ノ御好意ニ依リ極メテ愉快ナル時日ヲ經過シ得タルハ深ク感謝ノ意ヲ表スル所ナリ

玆ニ謹テ答辭ヲ呈ス

右總督ノ演説ハ本官直ニ之ヲ邦語ニ通訳シ土屋司令官ノ演説ハ本官之ヲ英語ニ通訳シタリ

閱兵後ノ分列式ハ其ノ成績極メテ良好ニ行ハレ今回前後シテ舉行セラレタル各国軍隊ノ分列式中最モ成功シタルモノナリトハ当地内外人間一般ノ定評ニシテ場ノ内外ニ蟄集シタル觀覽者ハ終始喝采ノ声ヲ絶タサリキ

当日式前陸戰隊ノ士官ハ歐羅巴「ホテル」ニ於テ又下士卒ハ「タウン、ホール」ニ於テ何レモ午餐ノ饗應ヲ受ケ式後隊員一同ハ直ニ帰艦シタリ

尚当地總督ハ我陸戰隊竝義勇隊ニ對シ感謝ノ意ヲ表スル為二月二十七日土屋司令官、陸戰隊附士官及艦隊幕僚義勇隊長和田中尉竝本官ヲ援助シテ義勇兵ノ組織ニ尽力シタル在留邦人中ノ重立者鈴木豫備海軍軍医總督大村三井支店長滝田台灣銀行支店長及大谷日本郵船会社出張員ヲ官邸ニ招待シテ盛大ナル晚餐會ヲ開キタルカ本官夫妻モ亦招待ヲ受ケテ之ニ列席シタリ

序記 当新嘉坡ニ暴動起ルヤ附近各地ノ人心亦頗ル恟々タリキ軍艦音羽ハ本月中旬当地地方沿岸航行ノ際馬刺加ニ寄航シタル処同地内外人共齊シク其ノ來航ヲ感謝シ時節柄彼等ニ多大ノ安心ヲ与ヘタリ

露艦「アリヨール」 三〇 同 十八日 三月 二日
(仮巡)

軍艦 對馬 八〇 同 十九日朝 二月二十五日

尚二月二十日蘭貢ヨリ英(白人)兵六百到着直ニ暴徒ノ鎮壓ニ從事シ爾來引続キ当地ノ警備ニ任シオレリ

右ノ外当地在留ノ普通英人ヲ初メ米、蘭、仏其ノ他ノ各国人約二百名ハ個々ニ特務警士 Special Constables ノ徵募ニ応シタルカ概シテ規律ヲ缺キ往々附与セラレタル権力ヲ濫用シテ不法ノ行為ヲ敢テスルモノ鮮ナカラス其ノ弊害ノ大ナリシコトハ当局官憲ノ私カニ本官ニ語リシ所ナリ

第六、暴徒ノ死刑執行ト当地方回教徒ノ惡感

竝之ニ對スル政庁ノ鎮撫策

暴徒ノ審理ハ目下当地軍法會議ニ於テ続行中ナルカ既ニ判決ヲ言渡サレテ死刑ノ執行ヲ受ケシモノ今日迄ニ合計三十二名アリ而シテ二月二十三日二名ノ暴徒ニ對シテ最初ノ死刑ヲ当地監獄外ニ於テ執行シ公衆ノ面前ニ於テ之ヲ銃殺シタルカ其ノ慘憺タル光景ハ極メテ觀衆ノ頭腦ヲ刺戟シ殊ニ回教徒間一般ニ恐怖ト惡感トヲ醸生シタリ其ノ結果彼等ノ間ニ流言蜚語荐リニ起リ彼等一般ノ民心ヲシテ戰々恟々タラシメ該教徒ノ秘密會合頻々トシテ開カレ遂ニ暗中不穩ノ

更ニ同艦ハ本月十三日彼南ニ入港シタル処同地官憲ハ新嘉坡ニ於ケル事件ニ關聯シテ大ニ民心ノ動揺ヲ憂慮シオリシ際トテ頗ル同艦ノ入港ヲ感謝歡迎シ特ニ艦長ニ對シ武裝セル軍隊ノ上陸ヲ懇請シタルニ依リ艦長ハ之ヲ快諾シ市民ノ面前ニ於テ仮設敵ニ對スル散開突撃ノ演習ヲナシタル後隊伍整々市中ヲ行軍シタルカ同地民心ノ鎮撫上効果少ナカラサリシ趣ニテ同地官民共之ニ對シ衷心感謝シタリト云フ

第五、各国海軍陸戰隊ノ上陸、特務警士ノ徵募及蘭貢英兵ノ到着

暴徒ノ鎮壓ニ從事セシモノノ内暴動突發前ヨリ当地ノ秩序維持ノ為組織セラレオリシハ新嘉坡義勇兵英人約百五十名竝馬來聯邦州義勇兵英人約八十名ニシテ事件ノ發生スルヤ即時暴徒ノ撃攘ニ從事シテ功績アリ
各国陸戰隊ノ上陸及帰艦(閱兵式後即日帰艦)ノ日取ハ次ノ如シ

兵数	上陸	帰艦
英艦「カドマス」	九〇	二月十五日夜 三月 十二日
仏艦「モンカルム」	一九〇	同 十七日朝 二月二十三日
軍艦 音羽	八〇	同 十七日夜 同 二十五日

形勢ヲ生スルニ至レリ於是政庁ノ狼狽一方ナラス該教徒ノ重立者ヲ介シテ政庁ノ方針ヲ説明シ百方手ヲ尽シテ之カ鎮撫ニ從事シ二月二十七日当地回教徒中ニ最モ勢力アル重刺比巫人豪商「アルサゴッフ」 Alsagoff ノ私邸ニ回教徒ノ重立者数百名ヲ招致シ「アルサゴッフ」其ノ他ヨリ詳細ニ政庁ノ方針ヲ説明セシメ徒ニ浮説ヲ迷信シテ騷擾セサル様諭告シ此ノ準備的會合ニ基キ本月六日「タウン、ホール」ニ於テ回教徒ノ大會ヲ開カシメ民政長官其ノ他ノ官吏モ之ニ出席シテ慰撫的演説ヲ試ミタルカ會衆約三千英國皇帝ニ對シテ忠誠ヲ決議シタリ而シテ同十二日ノ当地新聞ハ皇帝カ右忠誠ノ決議ヲ満足ニ思召ストノ回電アリシ次第ヲ公表セリ

如上ノ鎮撫策ヲ講スルト同時ニ当地政庁ハ彼等回教徒ノ動靜ヲ監視シ印度人ノ民情ニ通曉セル「ホートン」 Houghton 少將特ニ印度ヨリ出張シ來リテ過日來私カニ彼等内部ノ事情ヲ探究スル等嚴重ニ取締リツツアルヲ以テ差当リ何等憂フヘキ現象ナキモ彼等一部ノ過激論者中ニハ根本的ニ英國官憲ノ今回ノ措置ニ對シテ懣焉タラサルモノアリトノ事ナリ

第七、結 論

這般暴動ノ原因ニ関シ英國官憲ノ公表スル所ニ依レハ單ニ進級処分ニ對スル不平ニ基クトノコトナルモ諸般ノ情況ヨリ推断スルニ其ノ真因ハ前述ノ如ク對土開戦ノ影響トシテ印度兵中回教ヲ奉スルモノノ宗教の素因ニ加フルニ俘虜独人ノ巧妙ナル使喚ニ會フテ蹶起シタルモノニシテ独人ノ一部ハ其ノ計畫の中シテ逃走ノ目的ヲ達シタリ

而シテ事如何ニモ突如トシテ起リシ処政庁側ニ於テモ豫テ斯カル場合ニ処スル用意ヲ缺キシ為頗ル周章狼狽セシハ事實ナリ即各新聞紙ニ對シテハ当初絶對ニ本件ニ關スル記事ノ掲載ヲ禁シ且当地ノ新聞紙ハ一切之ヲ新嘉坡以外ニ搬出スルヲ得サラシメ郵便ヲ抑留シ本件ニ關スル電信ハ總テ発信ヲ許サス一向事件ノ他ニ影響セサラコトニ努力シタルカ之カ為当地一般ハ事ノ真相ヲ捕捉スルヲ得ス却ッテ流言蜚語ヲ旺ナラシメタリ

暴徒ノ鎮定ニ關シテハ各国陸戰隊ノ上陸及蘭貢英兵ノ到着ニ依リ日ヲ経ルニ從ヒテ漸ク鎮靜ニ歸シ市街地ノ秩序ハ在留英人其ノ他ノ特務警士ニヨリテ之ヲ維持シタリ本官亦總督ノ懇請ニ基キ即夜在留邦人ヲ以テ義勇兵ノ一隊ヲ組織シタル処内外官民ヨリ多大ノ信頼ヲ享受シ其ノ成績幸ニ良好

ニハ依然秘ニ此等英國官憲ノ処置ニ憤慨シ恐ルヘキ不平ノ暗流アリト而シテ之ニ乗セントスル独人側ノ煽動の秘密運動モ全然之ナキヲ保スヘカラストセハ何レノ時何レノ処ニ再ヒ同様ノ事件爆發スルヤモ計ラレス当地政庁カ此ノ際當

ナリシノミナラス在留邦人ハ勿論隊員中ニモ一人ノ死傷者サヘ出ササリシハ真ニ幸中ノ幸ナリキ

若シ夫レ斯カル暴動ノ突發ニ關シテハ当地英國官憲ハ到底疎虞怠慢ノ譏ヲ免カレサルヘシ現ニ蘭貢及孟買ニ於テモ当地ニ於ケル暴動ト殆ト時ヲ同フシテ回教印度兵ノ陰謀曝露セシ由(当地衛生局長其ノ他ノ言竝蘭貢新聞ノ記事)ナルカ右兩地ニ於テハ幸ニシテ当局官憲カ爆發前ニ陰謀ヲ発見シテ兵器彈藥ヲ取上ケタル為当地ニ於ケルカ如キ慘劇ヲ演スルニ至ラサリシ趣ナリ

這般暴徒ノ行動カ先ツ第一ニ電信ヲ切断シ各種ノ交通機關ヲ破壞スル等ノコトナク全然指揮統一ヲ缺如セシ点ヨリ推測スルニ固ヨリ前記蘭貢及孟買等ノ陰謀ト何等聯絡アルモノニアラス單ニ地方的ノモノナルヘシト思考スルモ更ニ一步ヲ進メテ深く回教徒全般ノ心理ヲ研究スル時ハ政庁当局者ニ懷柔セラレタル二三有力者ノ劇的画策ニ基ク形式的ノ忠誠宣言ニ信頼シテ安眠高臥スルヲ得サルヘシ

況ンヤ暴徒ノ死刑ヲ公衆ノ面前ニ於テ執行シ動モスレハ一回ノ射撃尚未タ足ラス更ニ短銃ヲ以テ完全ニ死刑ノ目的ヲ達スル等ノ光景ハ同教徒タラストモ尚觀ル者ヲシテ軫タ其ノ慘劇ニ堪ヘサラシム聞ラク当地地方ニ於ケル一般回教徒間

地ノ独逸人全部ヲ濠洲ニ輸送セントスルニ至リタルハ正ニ此ノ点ヲ憂慮シタルモノト察セラル